

提案書【業務実施方針について】

まち・人・緑をつなぐ開かれた活動拠点

まちと連続し緑と調和する、だれもが立ち寄りやすい市民の新しい交流・憩いの場を提案します。



たかの街から

1 小平の未来を担う拠点づくり

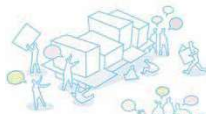
私たちの設計チームは、本整備事業を多様化するニーズに対応した次世代型公共サービスのあり方を発信する『小平の未来を担う拠点づくり』と捉え、幅広く要望を汲みとり課題を解決する、柔軟で迅速な協働体制をつくります。市民・職員のみならずとの綿密かつ丁寧な連携を通して、『福祉と教育の複合化』にともなう潜在的な課題をくみ取り、柔軟な提案と緻密な設計が一体となった対話型設計をおこなうことで、持続的で良好な地域コミュニティを形成する『開かれた活動拠点』の創出を実現します。



2 対話型設計と手戻りのない業務遂行

要望をくみ取り、反映する対話型の設計手法

提案する計画案をもとに、対話によって要望を汲み取り、反映させることで、設計を組み立てていく対話型の設計手法を行います。
・複数案の提示や代替案根拠の提示など、関係者が判断しやすい資料による丁寧な合意形成を行います。



△みんなでつくる建築

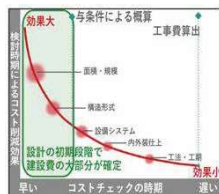
フロントローディングによる柔軟な設計工程

・綿密な設計業務計画とフロントローディング（課題検討の前倒し）により、早期に課題を抽出し、手戻りのない迅速な設計を行います。

工事予算との乖離を防ぐコストマネジメント

・設計着手時に工事予算の分析を行い、意匠・構造・電気設備・機械設備等、各分野ごとに予算を細分化することで、目標予算を詳細に設定します。

・各設計フェーズにおいて、コスト削減の視点で設計内容の確認と改善を行い、工事予算と乖離のない設計を行います。
・建設資材は単価と納期を的確に把握し、後戻りのないスムーズなコスト管理を行います。



△早期検討によるコストマネジメント

3D 技術によるデザイン・技術・環境の融合

・設計プロセスに BIM を導入し、効率的なスケジュール短縮と適切なコスト管理をおこないます。
・ヒアリングや市民ワークショップにおけるイメージ共有ツールとして、積極的に 3D モデリングを活用します。
・VR での 3D 体験や構造・環境シミュレーションを行い、早期意思決定に活用します。

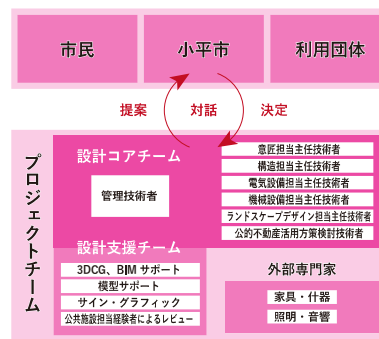
3 幅広い知見と豊富な経験をもつ設計チーム

柔軟な統合プラットフォームの構築

・公共建築の豊富な知見と実績を持つ設計事務所を中心に、構造・設備、ランドスケープ、公的不動産活用方策の熟練した専門家を協力事務所として迎えた設計コアチームを主体とし、外部コンサルタントや設計支援チームを加えた統合プラットフォームを構築します。
・発注者や市民、利用団体の意見を取り入れながら、柔軟に設計に取り組む協働体制を構築します。

各分野の社内エキスパートによる支援

・公共施設担当経験者による設計レビュー、サインやグラフィック、3D などの専門スタッフによるサポートなど、各分野の社内エキスパートが設計コアチームをサポートすることで、精度の高い業務遂行を実現します。



4 一緒につくる、開かれた設計プロセス

市民協働による利用者視点の設計

・施設の使い方やあり方について、市民のニーズを引き出すワークショップを開催し、利用者視点を重視した設計を行います。
・市民や利用団体のみならず行政、周辺企業、各部門の専門家を交えることで、さまざまな視点を共有し、利用者を限定しないフレキシブルな施設づくりを目指します。

迅速なイメージ共有を図る仕掛け

・ワークショップでは、幅広い方々が興味を持てるように、設計の進行に合わせて大きな模型やイメージパース等、分かりやすい素材を用い、子供からお年寄りまで幅広い方々の参加を促します。



5 意見交換とフィードバックを反復しスピーディに理想の施設像を探る設計工程

事業全体を通して段階的なテーマ設定を設け、ワークショップ、利用団体ヒアリング、設計レビュー等の意見交換とフィードバックの反復による密度の高い対話型設計をおこなうことで、市民・職員のみならずとの丁寧な合意形成を図るとともに、円滑な業務遂行と設計工程の適切なスケジュール管理をおこないます。

